

【草花の部屋】

トウゴマ (トウダイグサ科トウゴマ属 Ricinus communis)

和名：トウゴマ (唐胡麻) **別名**：ヒマ (蓖麻) **英名**：Castor bean

キントラノオ目 多年草 **原産地**：東アフリカ

花言葉：魔除け、いつもそばに **花の色**：黄 (種子は赤)



← **写真-1** トウゴマの樹形

撮影日：2015年10月24日

撮影場所：明日香にて

撮影者：M さん



→ **写真-2** トウゴマの果実

撮影日：2015年10月24日

撮影場所：明日香にて

撮影者：M さん

桜井市の多武峰にある談山神社から明日香村の石舞台古墳に至る、ハイキングコース沿いで見かけました。カエデに似た葉なので、カエデの仲間? と思い、調べてみましたが見つからず・・・。緑友会のSNSで問いかけてみると、会員の方から、「トウゴマ」との返信が・・・。さらに調べてみると・・・。

トウゴマは、日本へは古い時代に中国を経由して渡来したようで、栽培品種も多くあり、その植生や形態は個体によって大きく変化し、あるものは多年生で小さな木になるが、あるものは非常に小さく一年生に・・・。原産地の熱帯では多年草ですが、日本のような温帯では気温の関係で一年草になるそうです。葉の形や色も多様であり、育種家によって分類され、観葉植物用にも栽培されているそうです。

名の Ricinus はラテン語でダニを意味し、その名のとおり果実は模様と出っ張りのため、ダニに似ている？

種子から得られる油は、ひまし油（蓖麻子油）として広く使われており、種にはリシン (ricin) という毒タンパク質があるそうです。が、工業用の潤滑油や化粧品の材料として広く利用され、インド、中国、ブラジルなどで活発に栽培されているそうです。

日本では、ひまし油は日本薬局方に収録されており、下剤として使われる。ただし、猛毒であるリシンが含まれているため、使用の際は十分な注意が必要。特に妊娠中や生理中の女性は使用してはならない。また、種子そのものを口にする行為はさらに危険であり、子供が誤食して重大事故が発生した例もある。そのリシンの最低致死量は体重 1kg あたり 0.03mg だそうです。

<ちょっと一言>

- * リシンをエアロゾルとして吸入した場合、数時間後には呼吸困難、発熱、咳、吐き気などの症状があらわれ、その後に肺水腫や極度の発汗などの症状があらわれるそうです。吸入量が多ければ、血圧の低下や呼吸困難で死に至るそうです。
- * トウゴマの種を食べるなどしてリシンを経口摂取した場合は、嘔吐、下痢といった消化器症状を呈し、これにより脱水し血圧が低下。また、幻覚や痙攣などの症状あらわれることがあり、摂取量が多ければ、数日後には肝臓、脾臓、腎臓の機能が低下し、死にいたるそうです。